

《第 35 号》「作業の効率化を図り森林整備の促進を」

大貫圭介(戸吹北森を守る会代表)

八王子戸吹北緑地保全地域は、八王子市の北部に位置し、クヌギやコナラを主体とした雑木林のほか一部の植林地が広がっています。毎月 2 回、市内外から常時 15 人ほどのボランティアが集まり、森林整備や谷戸田の復元作業を行なっています。

作業の基本は林床や田への日照確保です。かつて薪炭林として利用されていた頃は、まめに手が入られ、木が薪炭に適した大きさになると萌芽更新が行なわれ、全体的に樹高が抑えられていたようですが、今は全体的に 20~30m の高さの木で覆われていて林床は暗く、田に日が当たるのは 1 日 3 時間ほどです。林床への日照率は 30%が目標ですが、今のところ夏場で 15%に届きません。日陰では実生(みしょう)は半年と持たず、また木が古くなると、伐採して萌芽更新させようとしても萌芽しません。15~20 年位で適宜伐採し、地形や成長速度に見合ったさまざまな種類の木を育てていければ良いと思うのですが。

伐った木の処遇も問題です。田の肥料としての木杯作りはできるようになりましたが、原則的に火の使用は都から禁止されており炭焼はできないため間伐や枝打ちなどで伐った枝木は粗朶(そだ)棚に積んでおり、山道などの補修に利用します。ただ、高温多湿の日本では腐りが早く、3~5 年ごとに交換補修を要し、手間がかかりすぎます。このような設備的なものはプラスチックなど長持ちする素材を用い、他の作業に労力を回した方がよいのではないかと考えています。林業はもっと機械化を促進するとともに、科学技術を活用して道具や設備の長寿命化を図り、効率化すべきということを感じます。

小さな谷戸田 10 枚計約 5a(アール/約 500 m²)ほどを復元しましたが、日照不足や水回りの不具合(砂質で漏水あり)のため、1a 位しか使えていません。試行錯誤の連続ですが、文明の歴史の体験の上で里山文化は大切との思いがあり、里山再生に取り組んでいます。

以上